

令和3年度 事業報告

社会福祉法人
県西福社会

令和3年度 事業報告（前文）

令和2年度の事業報告の末尾で、先の見えない「新型コロナウイルス感染症」の予防対策に万全を期しながら、利用者の生活の安定確保のため、継続して事業活動に取り組むことが、私共の使命と記しましたが、令和3年度もコロナに直面しながらの法人と施設の運営になりました。そして、2月から3月にかけて足柄療護園、プレアデスにおいて10名を超える利用者、職員がPCR検査において陽性となりました。ただ、医療、支援職員の懸命な努力によって、大きなクラスターを防ぐと共に、重症化を防ぐことができました。コロナ禍の中で、通所利用者の利用手控え等により、厳しい環境のもとでの事業展開となりましたが、プレアデス関本事業所の生駒への新棟を建設しての移転準備、そして、県西福祉センターにおける介護保険適用者の利用への途を開く、共生型通所介護事業への体制整備に取り組み、令和4年度へとつなげることができました。

社会福祉法人県西福祉会
理事長 松本信輔

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針

足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~11
6. 県西福祉センターの状況	... 12~13
7. プレアデスの状況	... 14~16
8. プレアデスホームの状況	... 16
9. ふくらんの販売状況	... 17
10. ボランティア活動の状況	... 18
11. 健康管理の状況	... 18~19
12. 給食の状況	... 20
13. 権利擁護の状況	... 21
14. 安全管理の状況	... 22
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 23
16. 広報の状況	... 23
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 24
18. 施設整備等	... 24
令和3年度 部門別重点実施事項実施報告	... 25~26

※文中の表現

・新型コロナウイルス = コロナウイルス

・コロナウイルス感染予防対策 = 感染対策

★経営方針

《 使命 》 職員的情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私達は、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」、「画一」、「指示」、「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者としての「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉プロ集団への進化

地域福祉の活性化

★足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要

令和4年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設) (介護保険通所施設)	プレアデス (障害者通所施設)	プレアデスホーム (障害者グループホーム)
施設入所支援 60名	生活介護 30名	生活介護 15名	共同生活援助 32名
生活介護 60名	通所介護 30名	就労B型 30名	
短期入所 6名	機能訓練(休止中)6名	日中一時 15名	
	就労B型 15名	相談支援	
	相談支援		

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	生活介護事業・相談支援事業 開始
平成19年 4月	自立訓練(機能訓練)事業 開始
平成20年 4月	障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	プレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助・日中一時)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / プレアデス福泉事業所開設
平成25年 4月	プレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	プレアデス福泉「ふくらん」開設
平成26年 4月	プレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	プレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設
令和4年 4月	県西福祉センター 共生型通所介護事業開始

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月28日	第1号議案 令和2年度事業報告(案)について 第2号議案 令和2年度決算報告(案)について 第3号議案 令和3年度第1回評議員会の開催(案)について	全員出席
第2回	6月18日	第1号議案 理事長選定(案)について	全員出席
第3回	10月22日	第1号議案 令和3年度 事業中間報告(案)について 第2号議案 令和3年度 資金収支中間報告(案)について 第3号議案 運営規程の改正(案)について 第4号議案 会社役員賠償責任保険の加入について 第5号議案 令和3年度第2回評議員会の開催(案)について	全員出席
第4回	3月11日	第1号議案 神奈川県監査(指導・実地)の結果及び改善報告(案)について 第2号議案 令和3年度 資金収支補正予算(案)について 第3号議案 令和4年度 事業計画(案)について 第4号議案 令和4年度 資金収支予算(案)について 第5号議案 諸規程の改正(案)について 第6号議案 県西福祉センター共生型通所事業の開始(案)について 第7号議案 令和4年度 基盤整備小委員会の設置(案)について 第8号議案 令和3年度 第3回評議員会の開催(案)について	全員出席

(2) 評議員会

第1回	6月18日	第1号議案 令和2年度決算報告(案)について 第2号議案 次期理事・監事選任(案)について	書面決議
第2回	11月5日	第1号議案 定款変更(案)について ①令和3年度 事業中間報告について ②令和3年度 資金収支中間報告について ③運営規程の改正について ④会社役員賠償責任保険の加入について	全員出席
第3回	3月25日	第1号議案 令和3年度資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和4年度事業計画(案)について 第3号議案 令和4年度資金収支予算(案)について ①神奈川県監査(指導・実地)の結果及び改善報告(案)について ②諸規程の改正について ③県西福祉センター共生型通所事業の開始について ④令和3年度 基盤整備小委員会の設置について	評議員8名 中7名出席 1名欠席

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員)

令和3年度において、理事会による基盤整備小委員会の設置は承認されたが、施設及び設備整備に係わる会議開催の必要となる案件が発生しなかった。

(4) 定款の変更

令和4年4月より事業開始を見込み、「介護保険法に基づく居宅サービス事業の追加」を行うとともに、「租特法第40条適用にかかわる条文の追加」及び「役員等の損害賠償責任の一部免除に関する条文の追加」を行った。新たな定款については、南足柄市より11月30日に認可を得て、登記を行った。

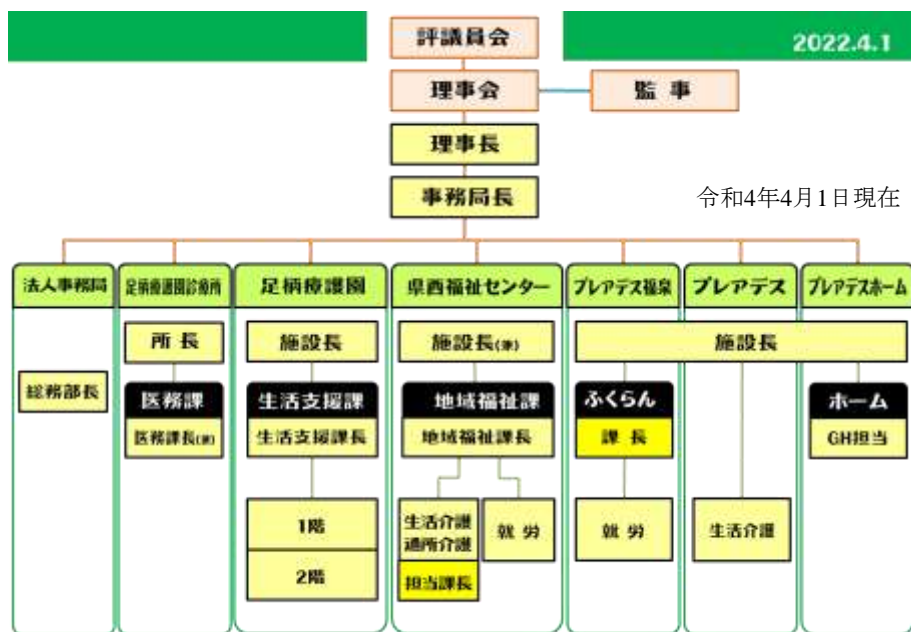
2. 主要行事

月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	避難訓練【プ&GH】 花見【プ】	評議員選任・解任委員会 コロナワクチン接種開始	
5	しょうぶ湯【足】 端午の節句・避難訓練【プ】 健康診断【足&GH】	健康診断【足&GH】 監事監査 理事会	家族会総会〔書面開催〕
6	プレアデス祭→中止 避難訓練【足&西】 お散歩外出【プ】	プレアデス祭→中止 評議員会(書面開催) 理事会	プレアデス祭→中止
7	スポーツ大会【足】・歯科検診【足】 七夕行事【足&プ&GH】 避難訓練【GH】	「ふくらん」8周年 避難訓練【GH】	
8	すいか割り【足】 薄荷湯【GH】		鎌倉女子短期大学実習生受入 小田原短期大学実習生受入
9	納涼会【足】 避難訓練【足&セ&GH】 カラオケ大会【足】	避難訓練【足&セ&GH】 職員会議【全体】	法政大学教育実習受入
10	秋まつり→中止 作品コンテスト 歯科検診・スポーツ大会【足】 避難訓練【プ&GH】 生姜湯【GH】	秋まつり→中止 理事会 避難訓練【プ&GH】	秋まつり→中止 日本大学教育実習生受入 高千穂商科大学教育実習生受入
11	インフルエンザ予防接種・健康診断【足・GH】 焼き芋会【足】 カラオケ大会【足】 避難訓練【GH】	評議員会 評価面接 職員健康診断【職員】 神奈川県県指導監査	鶴見大学介護等体験 神奈川県民間派遣研修
12	クリスマス会【足&西&プ】 仕事納め【セ】 カラオケ大会【足】 ゆず湯【足&GH】	避難訓練【足】	大掃除【GH】
1	新春イベント【足】 書初め【西】 成人を祝う会【プ】 利用者研修【プ】		
2	節分行事【足&西】 スポーツ大会【足】 バレンタインイベント【足&プ】		ちいきふくし博WEB【足&セ&プ】
3	カラオケ大会【足】 自分発表会【プ】 夜間想定避難訓練【足】	理事会・評議員会 職員会議【全体】 避難訓練【足】	

3. 組織体制

(1) 組織体制

組織的な変更は行っていない。プレアデス生活介護担当職員のうち2名をグループホーム担当職員として配置した。

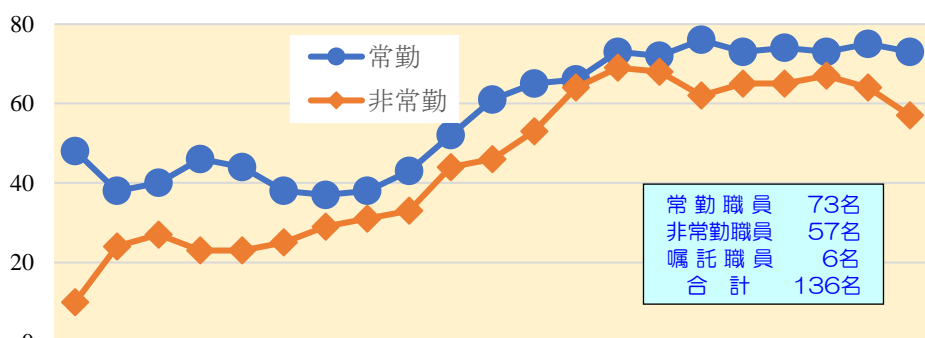


令和4年4月1日現在

(2) 職員数

常勤職員の退職者は4名、採用者4名のうち1名が人材紹介による。年度末の職員総数は136名であった。

非常勤職員の退職による補充に関しては慎重に行い、採用を抑えたことにより減少した。



H13H14H15H16H17H18H19H20H21H22H23H24H25H26H27H28H29H30 R1 R2 R3

職員数の推移(3月31日現在の職員数)

(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		県西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	1名		1名		1名		2名(兼務)	
医師		6名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	3名	10名		1名		1名(兼務)		
生活支援員	29名	8名	8名	6名	19名(兼務)	8名	12名(兼務)	1名(兼務)
指導員			1名		1名			
訓練担当	1名(兼務)	2名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							12名(兼務)	
その他	4名	6名		3名				12名

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

7月に1及び2等級の常勤職員及び一部の非常勤職員の昇給を実施した。また、10月には最低賃金改定にかかわる対応を行った。2月より処遇改善臨時特例交付金を活用した処遇改善を行った。

労働法規の改正に基づき、育児休業の対象者の変更等の改正を行った。

(2) 職員研修

コロナウイルスの影響で、研修日程を延期するなど感染対策を行いつつ、計画に沿って階層別に施設内研修を実施したが、2月に開催予定の中堅研修はコロナ感染症発生のため中止した。ふくらんにおいては、食中毒を含めたHACCP研修を実施した。



ふくらんHACCP研修

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
5月18日	基本的なオムツのあて方	日本製紙クレシア(株)	新人	12
8月24日	口腔ケア	加藤明美 歯科衛生士	新人	24
9月29日	感染症研修	奈良場課長	全体	27
10月21日	防災用品について	相日防災(株)	全体	16
12月23日	救命救急	鈴木匠/安武 支援員	全体	14
12月29日	虐待防止	平田施設長	中堅	22
2月10日	自閉症について	諏訪部 臨床心理士	中堅	中止
3月17日	権利擁護(虐待調査より)	柴田事務局長	全体	37

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
4月16日	マッスルスーツの活用法	(株)PALTEK	5
7月5日	利用者から学ぶ[利用者講演]	猪川言語聴覚士	8
11月25日	拘縮について	大野理学療法士	9

③施設外自己啓発(SDS)

介護福祉士や社会福祉士の資格取得支援として4名に対し受験交通費の支援を行った。

④施設外研修受講状況 (11企画延べ22名参加)

内容	参加者	主催
サービス管理責任者 基礎研修	府川晴紀、大賀史都	神奈川県
サービス管理責任者 実践研修	奈良場純一	神奈川県
サービス管理責任者 更新研修	佐々木一人、小林靖明、川西貴久、石川宗伸	神奈川県
相談支援従事者 プレ・初任者研修	大賀史都、大賀多美	神奈川県
相談支援従事者 現任研修	山岸直広、廣石寛之、佐々木一人、平田智徳、行待巧、小林靖明、大澤直樹	神奈川県
強度行動障害 実践研修	増田加寿美	神奈川県
スーパーバイザー研修	府川晴紀	神奈川県社協
初任者キャリアパス対応研修	石井大資	神奈川県社協
喀痰吸引等研修(第三号・全過程)	竹井美吹	フュージョンコム
全国社会福祉法人経営セミナー	柴田和生	全国経営協
身体障害者施設職員研修大会	山岸直広	身障協・関プロ

(3) 会議・委員会

感染対策を徹底しつつ、感染状況に応じては開催の延期や中止を判断し会議を開催した。オンライン等を活用した参加も取り入れた。各委員会の活動を通じ、リーダーシップの発揮をはじめとした、職員の能力開発と組織運営への参加をはかった。



オンラインを活用した運営会議

会議・委員会実施状況

名称	内容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	1回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	6回	理事長、柴田、田中、山岸、平田、行待、佐々木、大賀、根本
わくいき委員会 (日中活動)	クラブ活動や施設外活動、イベント等の企画・検討を通じ、充実した生活の実現を目指す	4回	◎西川、鈴木(匠)、山岸(里)、柘植、金子、迫田、岸、石井、中館、神羽、(山口、廣石)
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	4回	◎藤田、府川、阿部(礼)、丹羽、加藤、真田、阿部(達)、鍵和田、(石川、山口、廣石)
権利擁護委員会	成年後見制度利用状況の把握、身体拘束の把握、虐待が疑われるケースの検証等を行う。	2回	◎山岸、柴田、平田、行待、石川、佐々木、山口、廣石
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と事故の防止をはかる。各種マニュアルの整備。	4回	◎迫田、石川、佐々木、宮崎、府川、金子、武藤、岸、増田、湯田、古屋、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティアの誘致、受入れ及び対応にかかわることについて検討する	3回	◎加藤、山岸(里)、阿部(礼)、神羽、柘植、安武、鈴木(眞)、七海、月村、大熊
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	3回	◎丹羽、鈴木(匠)、藤田、森本、武藤、安武、石井、阿部(達)、櫻井、松本、土屋
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	8回	◎田中、野村Dr.、森本、西川、岩田、真田、谷口、根本NS、(山岸)
広報委員会	広報誌『やまぶき』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	4回	◎奈良場、岩田、鈴木(眞)、猪川、西川(奈)、鈴木(直)、秋山
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	11回	◎増田、山岸(直)、石川、山口、廣石、奈良場、NS、(佐々木)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援を行う	4回	◎猪川、石川、山口、廣石、戸張、西山NS、(山岸、平田、佐々木)、日清医療食品

(4) 労働衛生

健康診断は、5月12日に職員85名に対し行いました。所見のある職員が**49名(医師の指示17名)**おり、医師診断をすすめた。夜勤従事者は11月～12月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、健康保険加入職員56名に対してストレスチェックを実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

(5) 委員会活動報告

委員会名	委員長	実施報告
わくいき (日中活動) 委員会	西川	感染対策により制限のある中で利用者満足度の高いイベントを提供できるよう、スイカ割りや菖蒲湯・ゆず湯など新たな取り組みを行った。 施設外活動は、車両から降りずに回るドライブのみで実施した。 ぶらりランチはコロナウイルスの影響で中止となった。 「ふくらん」商品の販売は、入浴のない日を選定するなど定着してきた。
さくさく (業務改善) 委員会	藤田	モンゴル人技能実習生受入れに向け、リモートでの面談の実施やコーチャー制度の活用方法や業務マニュアルの作成をすすめた。 自宅からでも会議や研修等に参加できる仕組みを検討し、zoomによるリモート会議を試行した。 買い物代行について、増加した買い物に対応できるよう日程変更を行った。
リスク マネジメント 委員会	迫田	リスクマネジメント報告やヒヤットと共有書の内容について共有と対策の検討を中心に会議を行った。 利用者の緊急連絡先データの見直しを行った。 BCP(事業継続計画)の検討については、行うことができなかった。
権利擁護 委員会	山岸	令和4年度義務化の「虐待防止委員会」を権利擁護委員会に位置づけ、各事業所からの虐待案件などの報告を行うようにした。 身体拘束解除に向けたさらなる推進を行い、16名の実施のうち12名13項目について解除することができた。 12月に職員人権チェックを実施し、結果について職員会議にて周知した。
ボランティア 委員会	加藤	コロナ禍におけるボランティア活動数について目標は定めず取り組んだ。 感染対策から1年を通じてボランティアの受入れを中止したことにより、67名の活動数にとどまった。イベントでは「絵本タイム」「おはなし会」「フラダンス教室」、活動では「創作指導」をオンラインで実施した。 ボランティア食事は開催を中止した。
研修委員会	丹羽	コロナウイルスの影響で、研修の延期などスケジュール調整に苦慮したが、中堅研修1回を除き、おおむね計画通りに開催することができた。 コロナ禍における研修への参加方法について、オンラインでの参加や動画配信サイトyoutubeなどの活用を検討し試行した。 職員講師の研修を企画し実施した。
衛生委員会	田中	緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置により、会議開催は年8回となった。 2回の定期巡回を実施し、職場環境改善に向け修繕が必要な物について修理依頼をおこなった。ストレスチェックの結果を確認し、各事業所の健全化を目指せるように、情報提供を促した。コロナウイルスの影響により、乱れた生活リズムを整えられるように、各部署に情報提供を行った。
広報委員会	奈良場	広報誌『やまぶき』を計画通り年3回発行した。感染症対策で外出支援の制限があるので、コロナが落ち着いたら行ってみたい近場の名所にスポットライトを当てて特集した。また、足柄療護園において開催された個展を利用者に焦点を当てて紹介した。 今年度の写真販売は中止した。

委員会活動報告

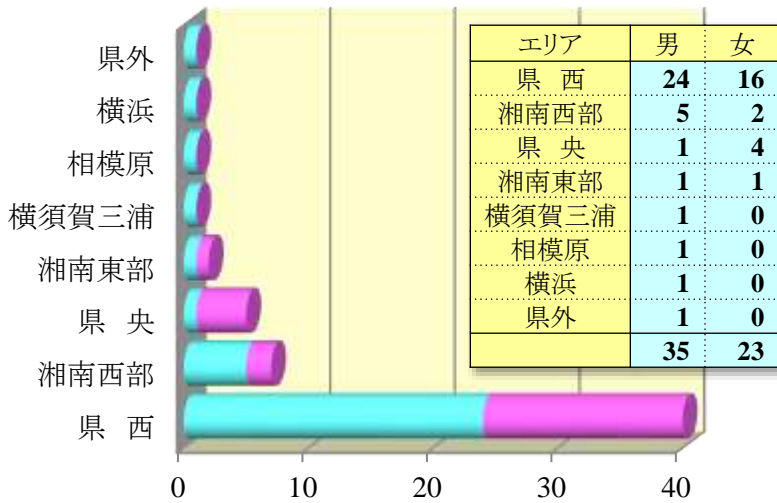
5. 足柄療護園の状況

(1) 施設入所支援

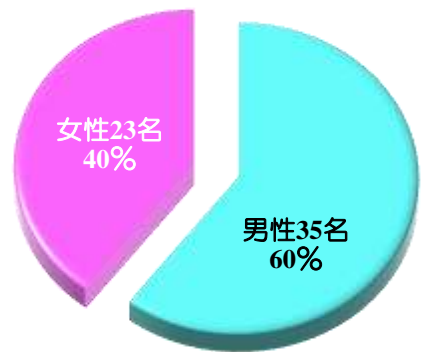
60名でスタートし3名が医療面での長期入院が必要となるなど5名が退所し、3名が新たに入所となり、年度末では58名となった。2月に入所者5名(職員6名)がコロナウイルスに感染したが、保健所の指示のもと徹底した感染対策を行い、大きく感染が広がることや全員が入院をすることなく対応することができた。

① 利用者の状況 (年度末現在;入所者数58名)

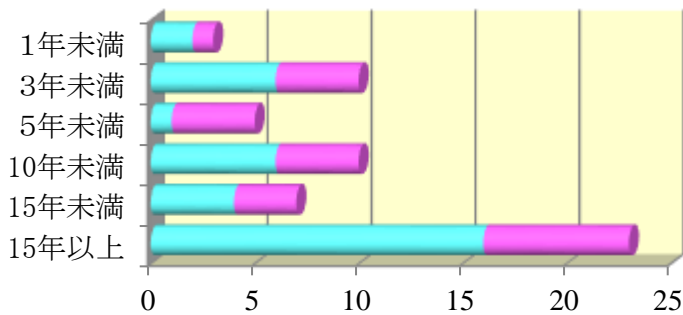
A.地域別入所者数: 県西地区が40名(69%)を占める。



男性が35名(60%)。

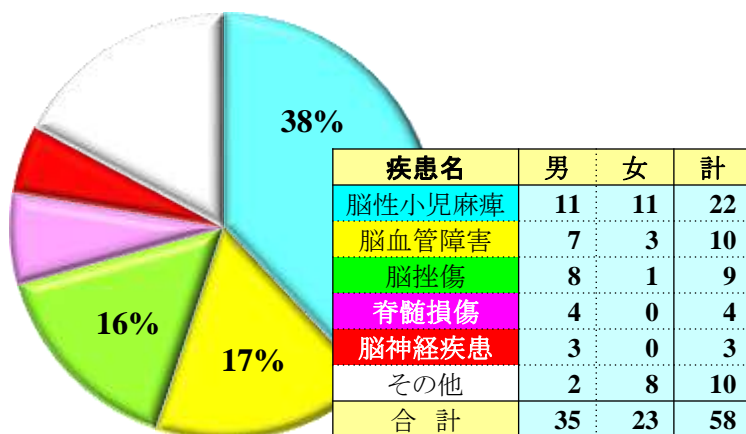


B.在所期間:10年を超えた方は30名で52%。



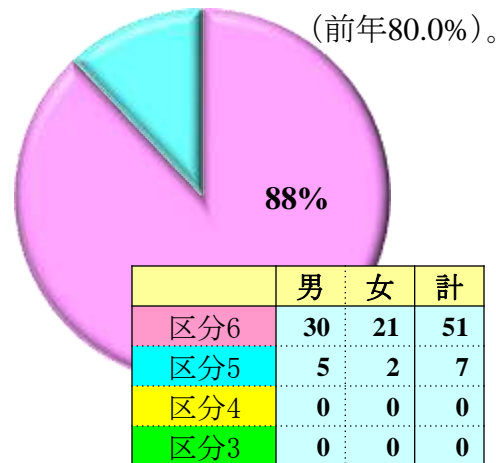
	男	女	計
1年未満	2	1	3
3年未満	6	4	10
5年未満	1	4	5
10年未満	6	4	10
15年未満	4	3	7
15年以上	16	7	23

C.疾患別原因:脳性マヒの方が38%を占める。

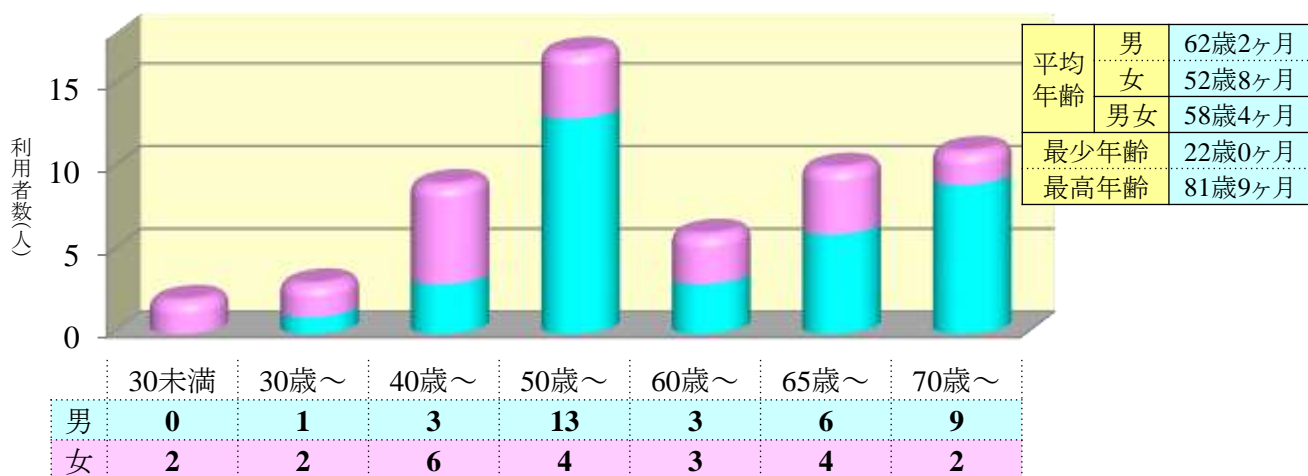


D.障害支援区分:区分6 が88.0%

(前年80.0%)。



E.年齢別：平均年齢は58歳。70歳以上は11名。

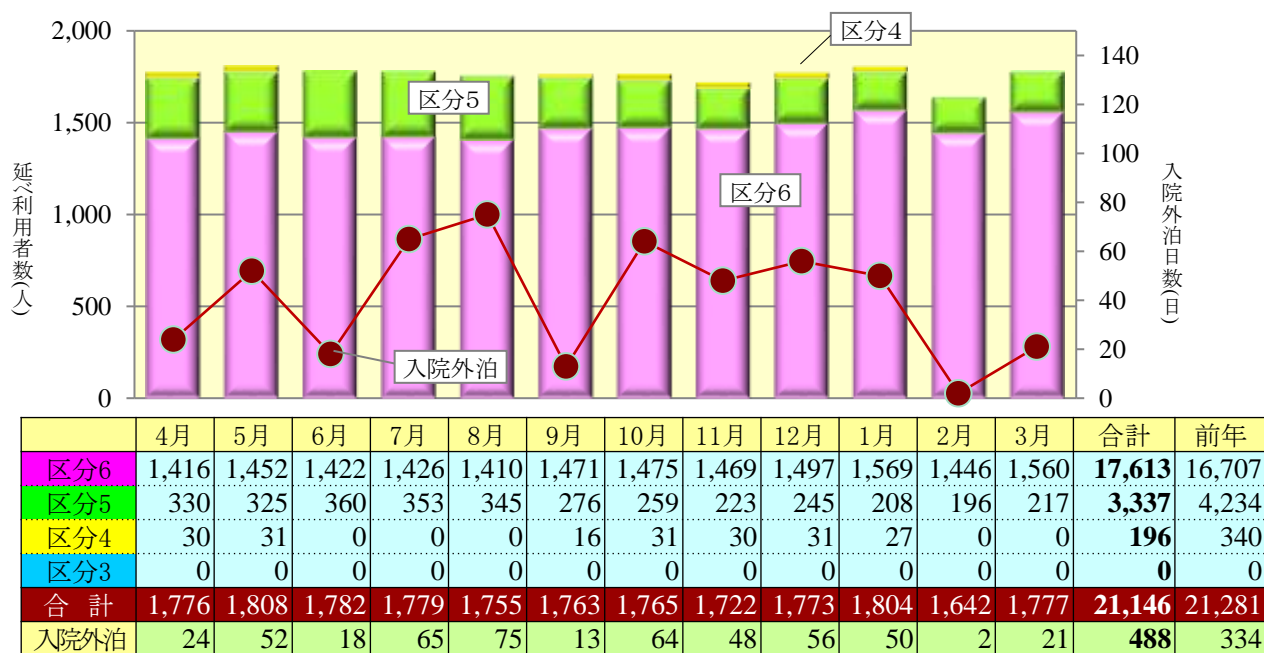


②個別支援

個別支援担当職員を1名の利用者につき2名の支援員を配置し情報を共有することで、迅速な対応と、全体的な職員のレベルアップと支援内容の充実がはかれるようになった。

③利用状況

繰り返しの入院や施設へ戻って来ることができない病状の悪化も発生し入院日数が多く、利用日数は前年を若干下回った。外泊については緊急事態宣言などの際に外出・外泊の自粛をお願いするなどしたため、昨年並みとなった。利用者の高齢化や支援量の増加が進み、区分の見直しなどにより最重度である区分6の利用日数が前年に比べて900日程度増加した。



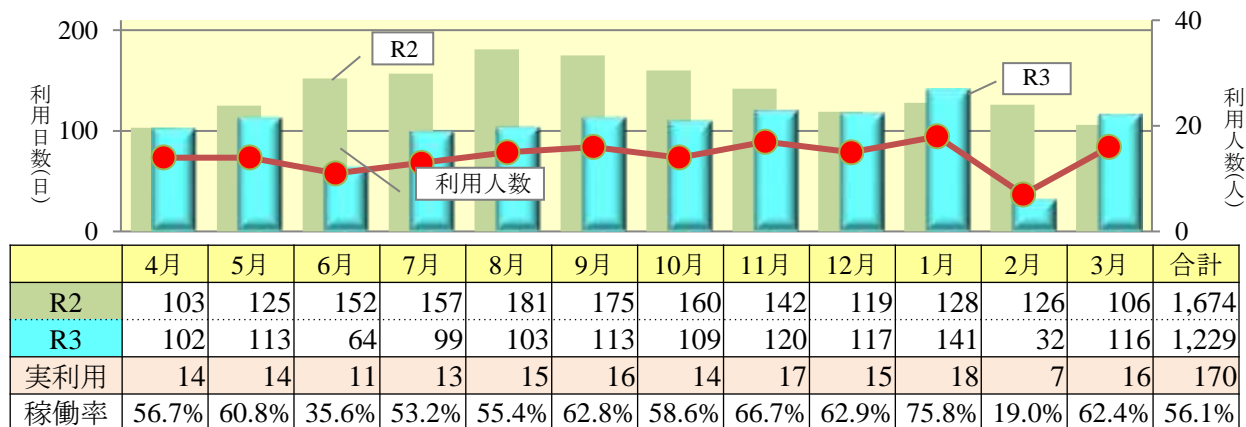
(2) 短期入所の状況 定員6名

登録者34名(前年34名)に対し、実利用27名(前年28名)年間延べ**1,229日**(前年1,674日)のサービス提供を行い、平均ベッド稼働率は**56.1%**(前年76.4%)であった。併設の足柄療護園において6月から7月にかけて入所者で濃厚接触者が発生、2月から3月にかけてはコロナ感染症が発生し、その間短期入所の受入れを中止したことが利用減少の主因である。

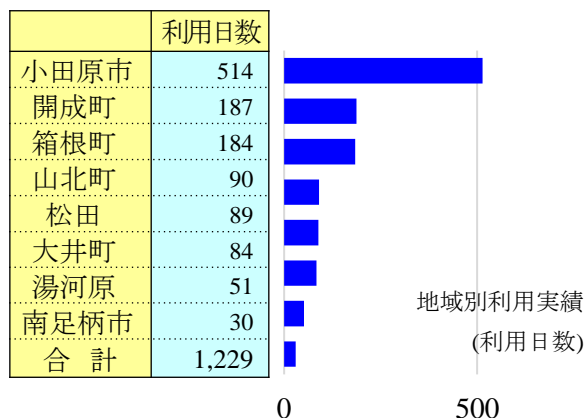
感染対策から原則居室での対応とし、居室配膳やクラブ活動へ参加制限などについて了承を得ながらの利用となった。

①利用者の状況(3.31現在)

A. 利用実績: ベッド稼働率は**56.1%**で、延べ利用日数は1,229日であった。

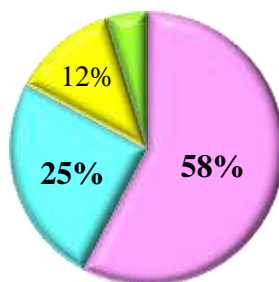


B. 域別利用状況: 小田原市が半数を占める。



C. 障害支援区分別

区分5と6で約83%を占める
平均障害支援区分は5.35
(前年5.17)



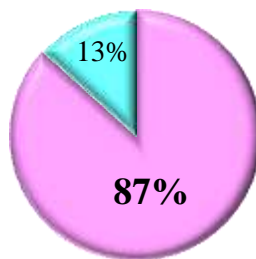
	日数
区分6	710
区分5	308
区分4	152
区分3	59
区分2	0

障害支援区分(利用日数)

②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の補助事業は12年目となり、**23名**(前年27名)の登録、実利用7名の方に対し延べ**153名638日**(前年136名635日)のサービス提供を行った。

また、県からの受託事業である「地域ネットワーク強化事業」において、圏域の関係機関との会議を通じ連携強化をはかった。



	日数
区分6	553
区分5	85
区分4	0
区分3	0
区分2	0

障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラブ活動等

クラブ活動は、感染対策によりボランティアの受入れ中止中であることや1階と2階の利用者の交流を最小限にとどめていることから、内容や支援方法を変更して活動をしぼり、少人数で参加できるように開催数を増やして実施し、日中活動の充実をはかった。各種大会や作品コンテストにおいても、感染対策を徹底しつつ実施した。

クラブ名	回数	参加	平均
カラオケクラブ	142	1,000	7.0
卓上クラブ	63	490	7.8
スポーツクラブ	34	563	16.6
パソコン	44	327	7.4
創作クラブ	22	171	8.1
陶芸クラブ	15	47	3.6
園芸	0	0	
ローリングハレー	0	0	
華道クラブ	0	0	
カーレット	0	0	
音楽同好会	0	0	
合計	324	2,610	8.1

クラブ活動等の実績及び各大会実績

カラオケ大会	
9月15日	参加11名/観客24名
11月10日	参加12名/観客26名
12月23日	参加11名/観客27名
3月16日	参加12名/観客15名
卓上ゲーム大会	
2月2日	参加18名
スポーツ大会	
4月28日	ボーリング 参加41名
7月21日	ゴロ卓球 参加35名
10月27日	運動会 参加46名
1月19日	ボッチャ 参加40名
同日に1階と2階に分かれて開催	
作品コンテスト	
10月6日	応募数131作品
～19日	90名の投票により選考



② イベント・余暇活動（アクティビティ）

法人全体で取り組む「秋まつり」は、感染対策から中止とした。季節ごとのイベントは、わくいき委員会を中心に、6企画を開催し、参加者は279名であった。また、しょうぶ湯やゆず湯など日常生活の中で季節感を味わえる企画を実施した。

月	イベント	参加数
8月	スイカ割り	49
9月	花火大会	45
11月	焼き芋会	48
12月	クリスマス会	43
2月	節分会	43
3月	ひな祭りイベント	51

イベント開催状況

③ その他の活動

施設外活動：

感染対策から外出を控えていた施設外活動は、希望者が多く車両から降りずにドライブを実施し、13ルートで45名が参加した。

買物外出：年間を通して中止

施設外大会・発表会への参加：開催中止

“ぶらり外出” “ぶらりランチ”：年間を通して中止

飲酒・喫茶：年間を通して中止

外出先	回数	人数
小田原方面ドライブ	4	11
海沿いドライブ	2	6
小田原城方面ドライブ	1	3
ざる菊・紅葉ドライブ	2	6
花見ドライブ	4	19

施設外活動実施状況



6. 県西福祉センター(生活介護・自立訓練・就労継続・相談)の状況

機能訓練の利用者が減少し1月より事業を休止した。登録者数は76名で前年(77名)並みではあったが、利用人数は9,180名の目標を掲げたものの、職員の退職やコロナウイルスが原因で**営業休止**があり、また感染の不安からの利用自粛の影響も重なり、**6,999名**(前年8,144名)と前年を**14%**下回った。**1日平均は25.8名**(前年度26.4名)であった。送迎時車両乗車前の検温の実施、訓練機器や手すり等の消毒、毎日の車両の消毒など感染症対策に努めた。

【生活介護事業】

❖ 営業休止が延べ28日あり、利用人数は8.0%減の**3,096名**(前年度3,365名)となり、1日平均**11.0名**(前年度11.1名)であった。入退所状況は、新規16名、退所8名と増加傾向にある。

【機能訓練事業】

❖ 利用者が減少し1月より事業休止とした。12月までの利用人数は**415名**(前年度1,021名)であり、1日平均**2.0名**(前年度3.4名)であった。

【就労継続支援B型事業】

❖ 営業休止が延べ37日あり、利用人数は7.2%減の**3,488名**(前年度3,758名)となり、1日平均**12.8名**(前年度12.4名)であった。入退所状況は、新規2名、退所2名であった。

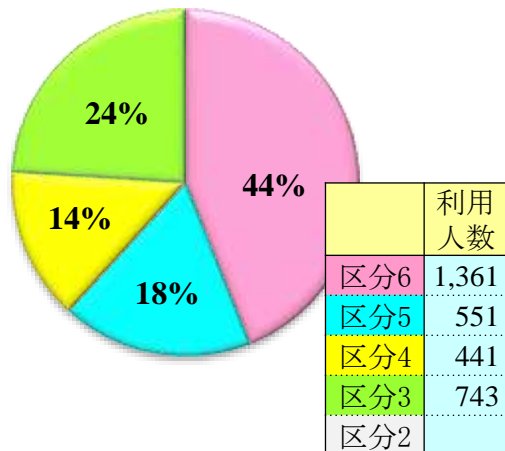
(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/自立訓練6名/就労継続15名)

①地域別利用者延べ数(小田原市45%、南足柄市30%)

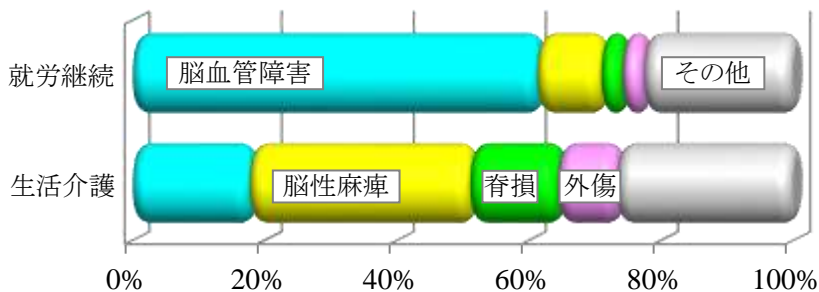
②生活介護利用者障害支援区分

	生活 介護	自立 訓練	就労 継続
小田原市	1,250	148	1,781
南足柄市	843	101	1,166
山北町	340		249
大井町	281	18	215
開成町	158	145	38
松田町	94	3	39
箱根町	69		
秦野市	47		
湯河原町	14		
合計	3,096	415	3,488

平均障害支援区分 **4.8**(前年4.8)



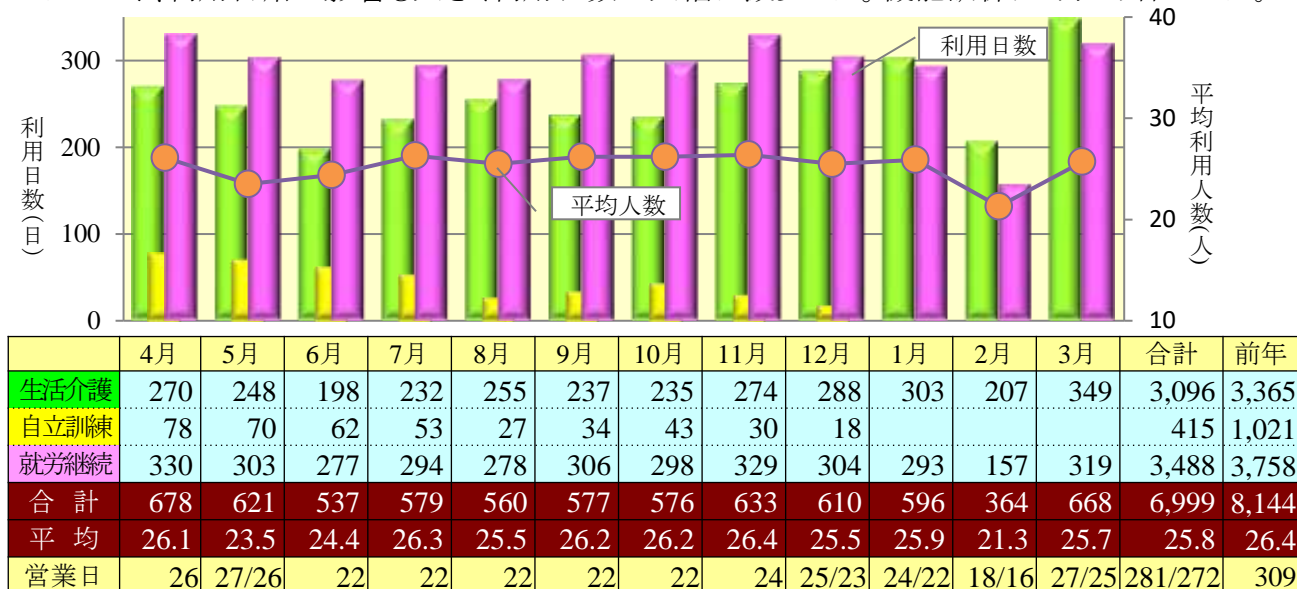
③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活 介護	就労 継続
脳血管障害	8	19
脳性麻痺	15	3
頭部外傷	6	1
脊髄損傷	4	1
その他	12	7
合計	45	31

(2) 利用状況

前期は職員の退職により土曜日営業を休止し、年明けからは利用者やその家族のコロナ罹患や足柄療護園での感染者発生に係る営業休止など、営業日数が昨年により1割程度減ったことや、利用自粛の影響も大きく利用日数が大幅に減少した。機能訓練は1月より休止した。



(3) 利用者工賃の支給状況

コロナウイルスの影響から減少した受注作業は依然少ないままである。平均工賃は前年度より若干低い月平均 **4,034円** (前年4,057円) となったが、時給換算では前年の128円を5円上回りの**133円**となった。職員の手がかかる作業が多いことから、プレアデス福泉の軽作業との連携をはかり効率化に向けた調整を行った。

(4) 日中活動の状況

感染対策により生活介護棟から訓練機器のある足柄療護園への移動を制限することが多くなっていたことから、生活介護棟においても訓練を実施できるように、プーリー2台や足底板などの機器の整備や訓練スペースの確保を行った。生活介護では9月よりオンラインを活用した「絵本タイム(4回)」や「フラダンス教室(1回)」の活動を開始した。



新たに導入した訓練機器を使ったリハビリ

(5) 相談支援事業

相談件数は合計で66件で、地域別では小田原市在住者からの相談が18件と最も多く、全体の27%であった。通所の相談内容は、相談支援事業者からの相談がほとんどで、入浴と機能訓練にかかわる内容が多い。

サービス利用計画作成は全体で53名で、内訳は足柄療護園入所者43名、在宅サービス利用者10名である。

生活介護相談	16件
訓練相談	10件
就労継続相談	2件
入所相談	22件
短期入所相談	16件

新規利用相談件数

(6) 共生型通所介護事業開始に向けて

令和4年4月より、介護保険サービス「共生型通所介護事業」の新たに開始に向けて準備を進め、神奈川県より事業開始の認可を得た。

7. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

生活介護及び就労B型の年間利用者数は、前年を下回り**12,380名**(前年12,878名)、1日平均**32.6名**(前年度35.5名)の実績となった。コロナの影響から、感染者だけでなく、感染の不安から自主的に休まむケースやグループホーム等で発熱者がでたことにより、感染対策の観点から通所を控えていただくケースなどがあり、利用実績に影響があった。

登録者は62名でスタートし年度末では**59名**(生活介護24名、就労B35名となった。生活介護利用者の障害支援区分は平均で**5.17**(前年5.32)であった。

令和5年の生活介護、就労B型の多機能型から単独事業への移行準備として、今まで合同で行っていた送迎及び食事の運搬について、各事業所単体で行うように検討、検証を重ね、いつでも開始可能とできる状況にまで、体制を整えることができた。

【生活介護事業】

❖登録者は養護学校卒業生2名を迎え24名でスタートし年度末には23名となった。コロナ感染者発生により13日間の休業があったものの、利用人数は前年を若干下回るにとどまった。4月から5月にかけて近隣入所施設のクラスター発生に伴い、入居者1名の緊急受入れを行った。生駒への移転を念頭に置き、個別支援計画書の様式を見直しを検討した。

【就労継続支援B型事業】

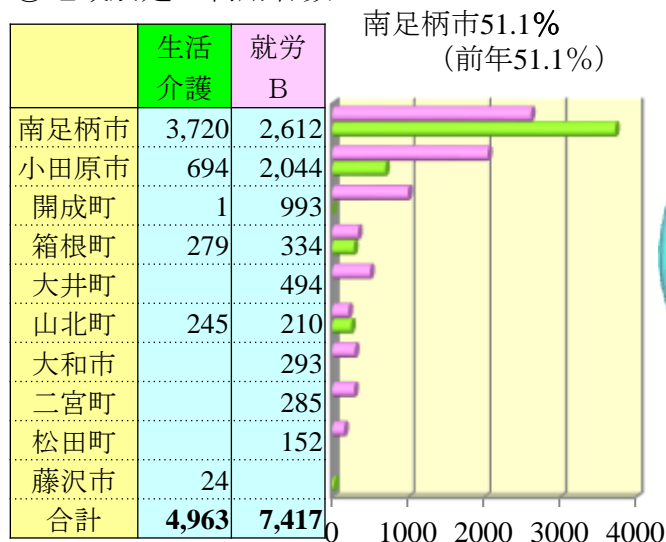
❖生活介護に移行などで登録者は1名減り35名となった。利用人数は前年を若干下回った。福泉事業所の一本化に向け、土日作業は受注作業を止め、ふくらんのみに対応とした。ふくらんでは外部販売が減っている状況を踏まえて、納品先の拡大、新商品の開発、オンラインショップの開設、ふるさと納税の返礼品と販路拡大に努め、売り上げを伸ばした。

【日中一時事業】

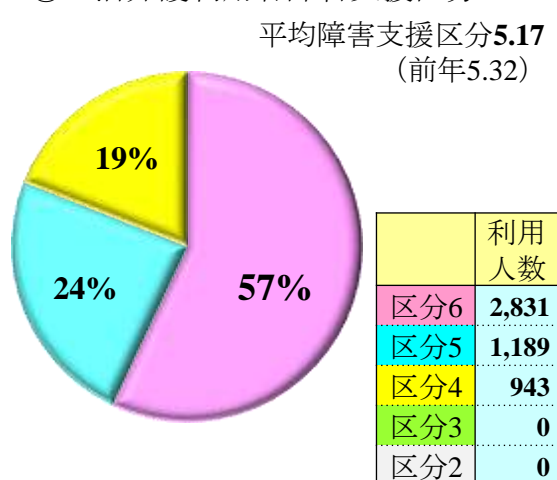
❖コロナの影響が響いたが、15名の登録者に対し、昨年度を若干下回る2,538日(前年2,681日)のサービス提供を行った。サービス提供時間は昨年度に引き続き16時から17時までの短時間の提供だが、利用者が落ち着いて帰宅できるよう個別に対応できた。

(1) 利用者の状況

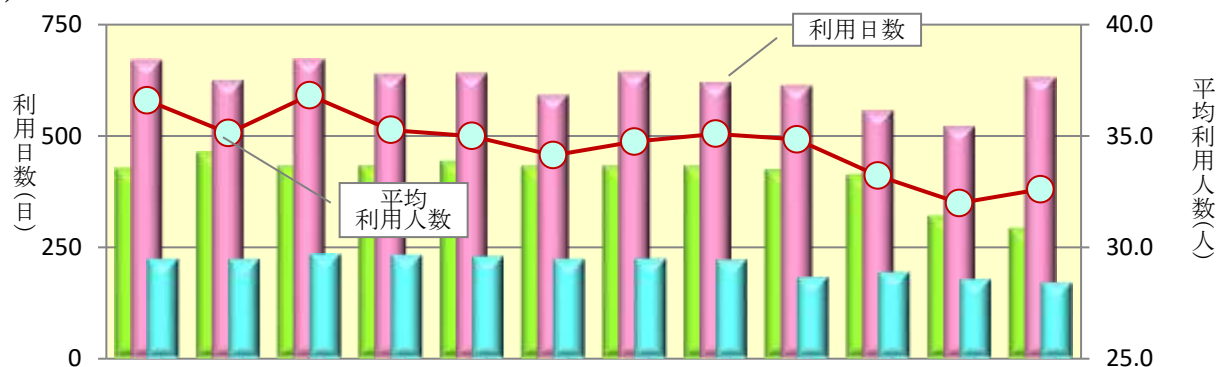
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	428	465	433	434	445	433	434	434	426	414	321	294	4,961	4,995
就労継続	670	624	672	638	640	591	643	619	612	556	521	631	7,417	7,883
合計	1,098	1,089	1,105	1,072	1,085	1,024	1,077	1,053	1,038	970	842	925	12,378	12,878
平均	36.6	35.1	36.8	35.3	35.0	34.1	34.7	35.1	34.8	33.2	32.0	32.6	34.7	35.5
営業日	30	31	30	31/30	31	30	31	30	31/29	31/28	24/28	24/31	360/365	360/365
日中一時	223	223	235	233	229	223	224	222	183	194	178	171	2,538	2,681

(3) 利用者工賃の支給状況

コロナの影響により、受注作業の回復が見込めない状況にある。ふくらの売上は前年を上回ったもののコロナ前には回復できず、プレアデス福泉(就労B型)の平均工賃は全体で11,736円と前年比を約1,000円下回った。

	R3年度	R2年度
プレアデス全体	11,736	12,856
ふくらん以外	8,543	8,526
ふくらん	13,322	19,703

平均工賃実績

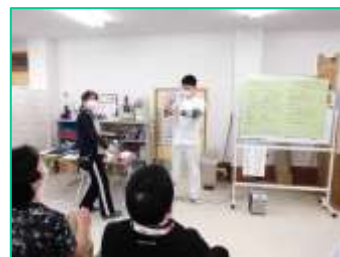
(4) 相談支援事業

13件(前年14件)の相談があった。日中支援型のグループホームが近隣に開所したことで、その利用者の日中活動の場としての相談が大半を占めた。また、養護学校や相談支援事業所から、グループホームへの入所にかかわる問い合わせが多くあったが、コロナにより見学等は延期になった。

生活介護相談	2件
就労継続相談	5件
入所・GH相談	6件
その他	0件

(5) 日中活動

生活介護では利用者主体の誕生会が定着し、利用者が率先して会に参加するようになった。毎月の創作活動については感染対策を徹底しながら実施した。就労B型では、「コロナ感染予防について」をテーマとした利用者主体の研修会の開催と「自分発表会」を実施した。活動を通して、コロナ禍における自粛生活の影響による利用者のストレス軽減に努めた。



自分発表会〔就労B〕

(6) 施設外活動

感染対策から計画していた施設外活動の多くが中止となった。就労B型ではチャレンジ遠足を計画していたが実施できなかった。生活介護では利用者のストレス緩和を考慮して、広く人が少ない場所を選定し4回の施設外活動を行った。



おさんぽ外出〔生活介護〕

(7) 地域交流

感染対策からプレアデス祭は中止とした。プレアデス、プレアデスホームでは自治会に加入し地域自治会の夏祭りへの参加やふくらんの出張販売などを通じて交流を行っていたがその機会は中止となっている。

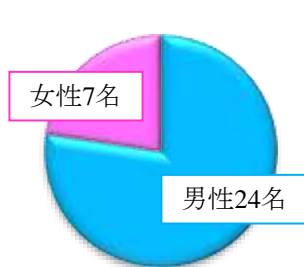
ふくらんでは、いずみ自治会の協力をいただき、12月に各家庭に注文書を配布し、個別に配達を行う取り組みを実施し、ふくらん8周年の際は、送迎バスを稼働して来店に協力いただいた。

8. プレアデスホーム（共同生活援助定員32名）

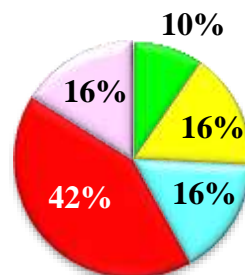
入居利用者は1名増え31名となった（年度末で1名退所となり令和4年4月1日は30名）。コロナの影響もあり、見学や体験利用の制限から利用者増をはかれなかった。

あまつぼの利用者1名のコロナ陽性が判明し、保健所の指示のもと2月25日から3月16日にかけてあまつぼホーム全体で感染対策を実施した。感染対策を徹底しつつ買い物、余暇外出等楽しめる企画を実行した。コロナウイルスのワクチンについては、足柄療護園診療所等において全利用者が3回目の接種を終えた。

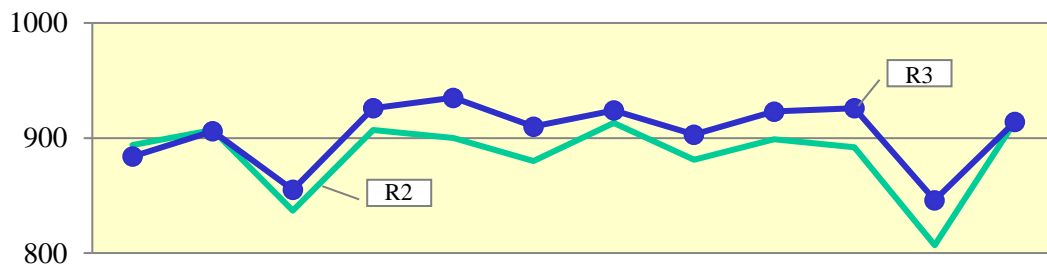
A.入所者の性別及び人数 B.障害支援区分



区分	あまつぼ			やまさき			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6	1	2	3				1	2	3
5		1	1	3	1	4	3	2	5
4				3	2	5	3	2	5
3	1		1	12		12	13		13
2	1		1	3	1	4	4	1	5
1									



C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	884	906	855	926	935	910	924	903	923	926	846	914	10,852
入院日数	0	0	30	18	0	0	16	8	10	0	0	31	113
外泊日数	16	24	15	17	26	20	21	19	28	35	22	16	259
前年	894	907	837	907	900	880	913	881	899	892	807	914	10,631

発熱者が発生した場合には、医療機関への早期通院を実施するとともに、感染症を疑い徹底した感染対策を行い対応した。また、感染対策として、ホーム内においても、毎朝の検温、手洗い・消毒、マスク着用その他、食卓の亚克力板のパーティションの設置や他者とのディスタンスをとり、密集に至らない集団生活を送れるように、個々の利用者の新たな生活習慣への見直しを行った。

10月に諏訪野原公園に外出し体を動かした。例年開催している、**県西地区グループホーム交流会**は中止となった。

9.ふくらん販売状況

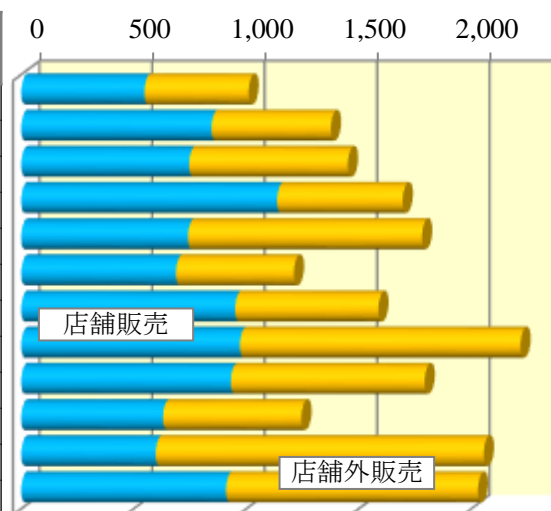
(1) 販売状況

年間の販売実績は**1945万円**で前年の1475万円を**32%上回り**、ほぼコロナ前の売上に回復した。コロナ禍で外販機会は少ないままだが、小田原ラスカへの年3回の出店(166万円)が売上アップにつながった。また、テレビでの放映を機会に薫る野牧場からの受注分の出荷で92.4万、新たに着手した通販の売上29.7万も売上を押し上げた。店舗では感染対策を徹底し休まず営業を続けた結果、前年を12%上回る売上を確保できた。納品に関しては、前年3月よりマックスバリュー開成店、5月より山北さくらカフェが加わり前年を大きく上回ることができた。アマゾンから6月にクッキー850個、11月にクッキー、ラスク各1000個の注文をいただいた。

登録利用者数は**25名**(昨年13名)、1日平均利用者数は**7.7名**(前年7.9名)、ふくらんの平均工賃は売上に見合った工賃改定を行い、**13,322円**(前年19,703円)と減少した。

◆月別販売実績(単位:千円)

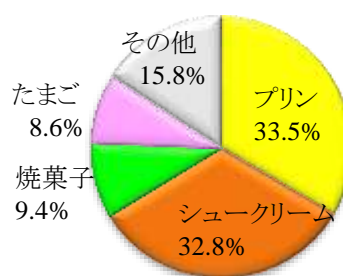
	店舗	店舗外				売上 合計	前年 売上
		小計	外販	受注	通販		
4月	547	463	94	368	0	1,010	906
5月	845	531	49	482	0	1,376	938
6月	746	705	231	474	0	1,451	765
7月	1,137	558	84	474	0	1,695	1,901
8月	741	1,040	595	445	0	1,781	918
9月	688	524	53	471	0	1,212	1,011
10月	951	636	237	399	0	1,587	1,172
11月	972	1,247	561	568	118	2,218	1,800
12月	932	861	70	708	83	1,793	1,244
1月	630	615	0	583	31	1,245	1,348
2月	598	1,458	601	815	42	2,055	1,125
3月	910	1,119	104	991	25	2,029	1,626
合計	9,697	9,756	2,680	6,779	298	19,453	14,754



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
プリン	3,309	33.48%	12,829	10,389
シュー	3,245	32.84%	16,462	15,802
焼菓子	924	9.35%	3,673	4,045
たまご	846	8.56%	3,656	3,466
その他	1,559	15.77%	5,167	4,886

※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる



(2) 取り組み

10月にテレビ朝日放映の「ザワつく! 金曜日」という番組で、「薫る野牧場」が登場し合わせて新商品の「薫る野プリン」も紹介され、牧場のオンラインストアでの注文で約3500個の注文があった。

3月には「神奈川新聞」のシュークリーム特集にふくらんが掲載され来店につながった。

12月に南足柄小学校2年生30名の社会科見学の受入れを行った。

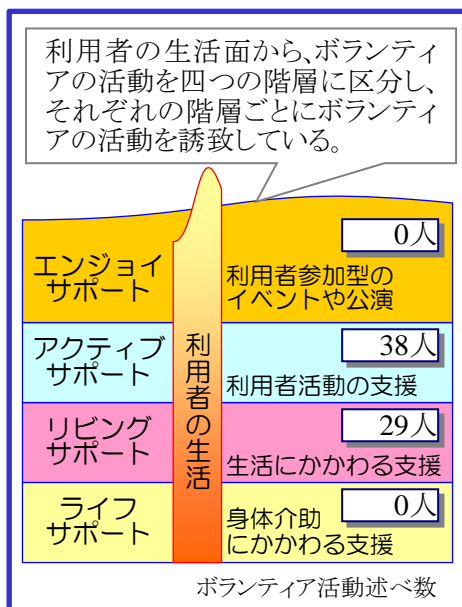
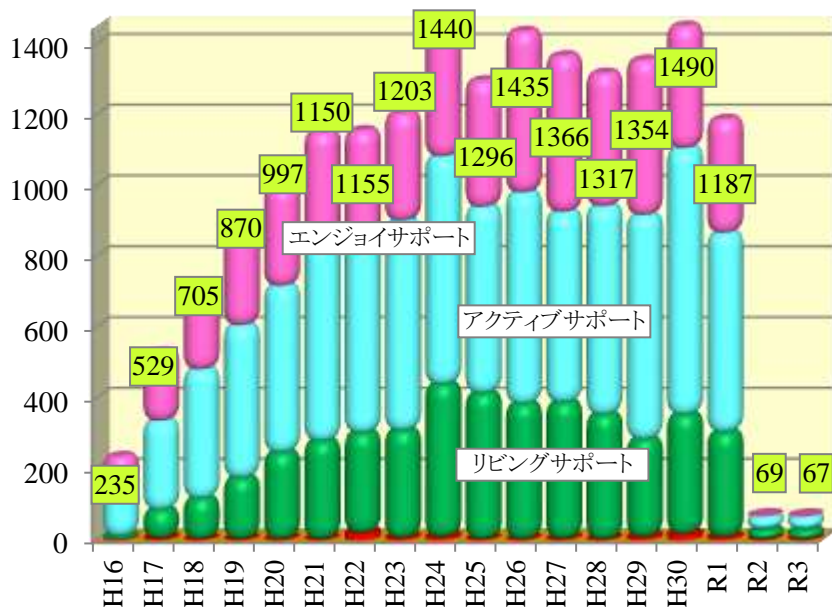


ザワつく! 金曜日 特別編「地球バカー代」

10. ボランティア活動の状況

(1) ボランティア実績

感染対策として年間を通して利用者と直接かかわるボランティアの受入れを中止した。オンラインを活用した活動などで受入れを始めたが**67名**(前年69名)の活動誘致にとどまった。プレアデスにおいては受入れることができなかった。



(2) ボランティアイベント開催状況等

感染対策からボランティアの受入れ中止が続いているが、オンラインを活用した「フラダンス」や「絵本タイム」の実施や施設内の別会場からオンラインでつないだ「おはなし青い鳥」を実施した。

ボランティア食事は、中止とした。

催事	参加	様子
絵本タイム とんちゃん	91名 /6回	
フラダンス ロドリゲス	31名 /2回	
おはなし 青い鳥	13名 /1回	

11. 健康管理の状況

(1) コロナウイルス感染対策

2月から3月にかけてコロナウイルスの陽性者が発生し、徹底した感染対策を実施し感染拡大を抑えた。

ワクチンについては、

1回目 4月30日～9月3日
2回目 5月21日～9月24日
3回目 1月21日～4月1日
職員125名、利用者84名の接種を行った。

事業所	感染者	感染対策期間	営業休止期間
足柄療護園	利用者5/職員6	2/10～3/6	短期 2/11～3/6
県西福祉センター	職員1	-	生活介護[2/11～16] 就労B型[2/11～19]
プレアデス	利用者2/職員2	-	2/25～3/7・3/12～13
プレアデス福泉	利用者1	-	なし
プレアデスホーム	(利用者1/職員2)再掲	あまつぼ 2/24～3/16	なし
合計		利用者8名 / 職員9名	

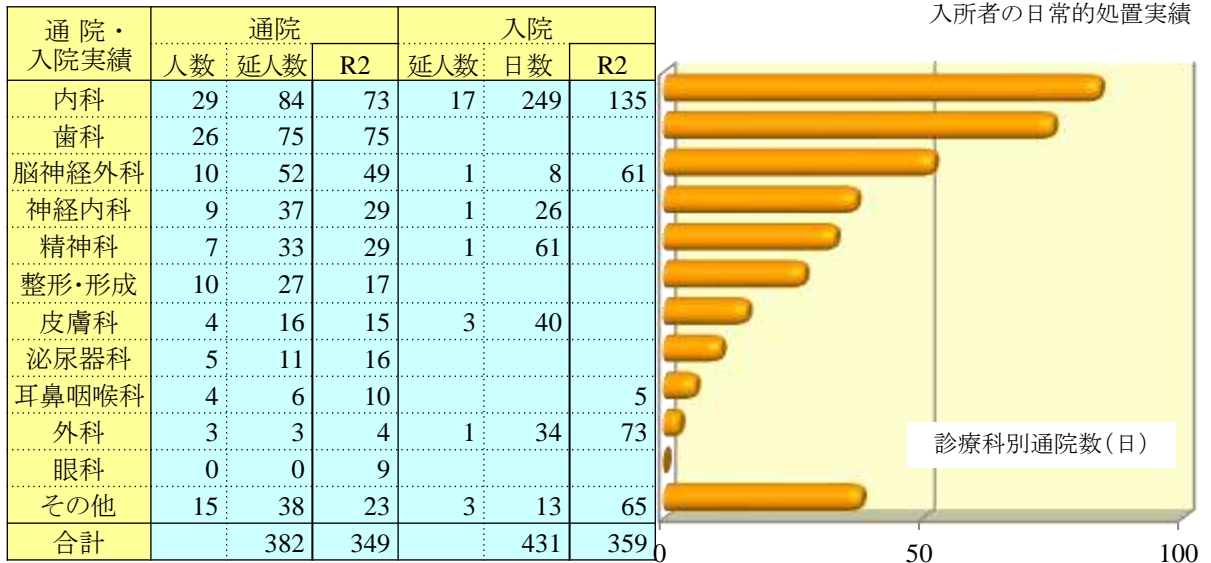
コロナウイルス感染状況

(2) メディカル

2月に居住者・職員のコロナウイルス陽性者が発生したが保健所の指示のもと職員全体で感染対応を徹底し終息することができた。通院数は年間382件（前年349件）と増加した。安定していた病状から急変される居住者も発生し入院数が431日（前年359日）と多くなった。

	対象者	件数
膀胱洗浄	4	115
摘便	4	259
義眼洗浄	1	25
褥瘡	6	528
経管栄養	6	1,814
バルーン交換等	2	7
その他	吸引 / 皮膚科処置 / 胃瘻・膀胱瘻処置 / 眼科処置 / 採血 / ストマケア / 心電図	

入所者の日常的処置実績



(3) リハビリ（訓練等サービス）

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。感染防止の観点から、換気、消毒の徹底及び密集密接を避けたプログラムやオンラインを活用した訓練を実施した。

機能訓練等

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。

個別に自主訓練の方法を提案し、身体機能への自己認識の向上を促した。また、身体機能に合わせた車いすなどの補装具の調整・提案を行った。

言語訓練

言語や認知機能に合わせて、意思伝達装置等の調整・提案を行った。また、必要に応じ摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の調整等を行った。高次脳機能やコミュニケーション能力の向上などを目的とした小グループ訓練を継続実施した。

	利用人数	延べ数		事業別		
			R2	入所	県西	プレ
言語訓練	47	1,395	1,423	750	645	78
機能訓練	51	1,384	1,349	831	553	
音楽療法	51	341	428	293	48	
グループセラピー	8	313	328	313		
合計		3,433	3,528	2,187	1,246	78
訪問マッサージ	35	3,829	3,263	3,829		

※訪問マッサージは、マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。

音楽療法（月2回実施）

音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などをはかった。

目的別に3つの小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上をはかり、オンラインにて成果発表を行った。

12. 給食の状況

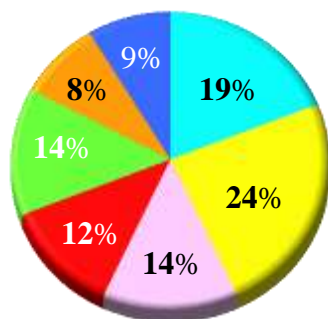
(1) 食事提供実績

厨房は、足柄療護園とプレアデスホームの2箇所稼働しており、プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供している。給食管理はともに、栄養士業務も含めて日清医療食品(株)に業務委託している。合計提供食数は、特にコロナの影響で利用者数の減少した短期入所や県西福祉センター分が減少し**104,037**食であった。

	食数
朝食	30,723
昼食	42,419
夕食	30,895
合計	104,037
施設	58,004
短期入所	2,115
県西福祉C	6,739
プレアデス	11,512
ホーム	21,932
職員他	3,735

4月～3月 給食提供実績

① 食事の提供形態;入所者の常食は19%(前年20%)



入所者の食事形態

	入所	県西	プレ
常食	11		78
一口大	14	6	3
1cm大	8	2	5
きざみ	7	2	1
超ざざみ	8	1	
ミキサー	5	4	
経管栄養	5		
合計	58		

3.31現在

② 栄養量

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1,603 k ^{カロリ}	1,941 k ^{カロリ}
たんぱく質	62.5 g ^{グラム}	68.3 g ^{グラム}
脂質	46.5 g ^{グラム}	49.4 g ^{グラム}
カルシウム	565m ^{グラム}	601m ^{グラム}
塩分	7.1 g ^{グラム}	7.2 g ^{グラム}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

ひとり当たりの1日の給食にかかわる費用は**2,030円**(前年1,984円)となった。

	令和3年度	令和2年度
業務委託費	39,138 千円	39,028 千円
食材費	33,716 千円	34,181 千円
給食費合計	72,854 千円	73,209 千円
1食当	700 円	685 円
1日当	2,030 円	1,984 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2) 食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「お誕生日メニュー」やイベントによる食事提供を行った。

4月8日	お花見弁当
5月5日	かつおのたたき
6月16日	紫陽花弁当
7月7日	七夕そうめん

8月3日	冷やし中華
9月21日	お月見丼
10月31日	ハロウィンメニュー
11月7日	マグロ丼

12月25日	クリスマスメニュー
1月1日	おせち
2月3日	恵方巻
2月3日	ひな祭りメニュー

(3) 給食検討会

調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を行っている給食検討会は、感染対策から開催を見送った。利用者、職員等からの要望は随時受付し、施設長、栄養士が情報収集を行った。

(4) 食のあり方検討会

年4回「食のあり方検討会」を開催し食形態やソフト食の推進について検討を重ねた。「食事観察依頼書(49件)」「食事観察経過評価用紙(4件)」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。また、利用者に対して食事アンケートを行った。

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

苦情の申し出はなかった。

(2) K-フレンズの活動

※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク
(身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

感染対策から訪問件数を減らし、年3回来園いただき、利用者から9件の相談を受け、施設への報告のもと適切に対処した。〔足柄療護園・県西福祉センター〕

(3) KWネットの活動

※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク
(県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の訪問相談を実施した。コロナ対策で開催日を調整しながら実施し、計13件の相談があった。内容としてはコロナ禍での先の見えない不安が多く見受けられた。〔プレアデス〕

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者4名5項目(前年10名12項目)、短期入所利用者1名1項目(前年5名6項目)合計6項目が身体拘束・行動制限に該当している。

12名13項目について解除することができた。

拘束内容	目的	件数
ベッド柵	転落防止	3
居室施錠	安全管理	1
両手ベルト	安全管理	1
車いすベルト	転落防止	1

身体拘束状況

(5) 成年後見制度等利用の推進

足柄療護園入所者58名のうち、22名(前年度22名)が制度を利用している。プレアデスホーム利用者30名のうち後見制度利用は11名となり、社協の安心サービス利用は5名となっている。

(6) 人権チェック調査結果

12月に職員に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『人権チェック』調査を実施した(回答111名)。

令和2年の調査結果と比較すると、8割近くの項目で評価の改善が見られた。最も評価の低かった項目は、昨年につき『利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている』という内容であることから、情報共有や支援のサポートを強化することとした。『他の職員の対応』について改善が見られたことはサービスレベルの向上につながる評価である。

評価の低かった項目

最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

利用者の年齢にふさわしい接し方をしている

昨年に比べて評価の下がった項目

最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている。

上司とは日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。

対応に困難が生じた事柄ややむを得ず不適切な対応を行ってしまった内容も記録している

昨年に比べて評価の上がった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

危険回避のための行動上の制限を本人及び家族等への説明や専門家の意見を聞き行うようにしている。

余暇活動を行うに際し、利用者がいやがることを強要しないようにしている。

14. 安全管理の状況

(1) 防災

防災計画に基づき、避難訓練・防火訓練を実施した。

福祉避難所の協定を結んでいる南足柄市より、サポート事業を活用し、小型発電機やオーラルケア用品を購入した。

月日	内容	
6月23日	部分訓練	緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置等の発出により、中止とした。
9月29日	総合訓練	居住棟2階娛樂室より出火を想定した避難訓練、通報訓練等総合訓練を実施。
12月23日	総合訓練	管理棟1階洗濯室より、出火を想定した避難訓練、通報訓練を実施。消防署員指導による救命救急、AEDの使い方講習を開催。
3月28日	部分訓練	夜間帯を想定した訓練。3階階段踊り場から出火を想定した消火訓練、避難訓練、通報訓練を実施。

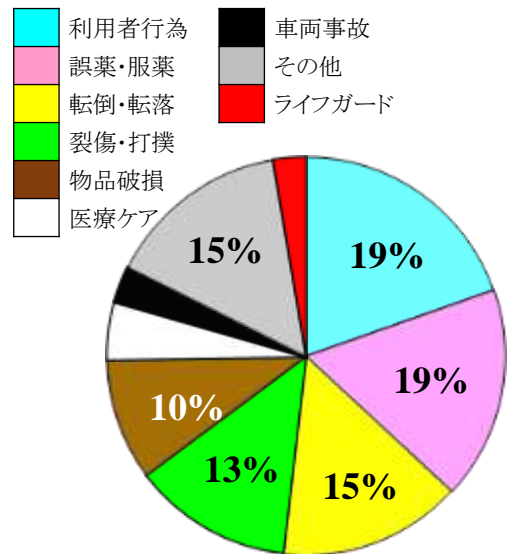
足柄療護園 避難訓練等実施実績

(2) リスクマネジメント（事故報告）

リスクマネジメント報告書による**事故件数は301件**で前年の395件を94件下回った。事業所別では足柄療護園が**193件**（前年226件）で**全体の64%**（前年57%）を占める。内容別では、部署により違いが見られ、足柄療護園では**誤薬・服薬**が最も多く22%、プレアデスでは、「施設からの無断外出による所在不明」などの利用者行為によるものが38件で41%を占める。**救急車による搬送**を必要とした大きな事例（ライフガード）が**8件**（急変や発作などによる救急車搬送）と多く発生した。

	足柄療護園	県西福祉C	プレアデス	合計	
利用者行為	19	2	38	59	19.6%
誤薬・服薬	42	0	10	52	17.3%
転倒転落	35	4	6	45	15.0%
裂傷打撲	23	0	16	39	13.0%
物品破損	25	0	5	30	10.0%
医療	13	1	0	14	4.7%
車両事故	1	4	4	9	3.0%
その他	32	1	12	45	15.0%
ライフガード	4	3	1	8	2.7%
合計	194	15	92	301	
	64.5%	5.0%	30.6%		

リスクマネジメント報告書内容



事故種別状況

(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤットと共有書によるインシデントの件数は**1年間で208件**と前年の252件を下回った。

内訳では、車いすから落ちそうになっていたなどの転倒/転落が最も多く53件（前年93件）、薬の飲み忘れなど服薬にかかわる内容は52件（前年73件）、自力による移乗などの利用者行為にかかわる内容が17件（前年29件）であった。

部署別では、足柄療護園が184件（前年202件）と89%を占めた。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりやプレアデス祭を中止としたため、地域の方々と交流する機会を逸した。ふくらんでは、いずみ自治会と連携し、注文販売をおこなった。

(2) 利用者講演

コロナウイルスの影響で、学校が休校やオンライン授業になり、また、感染対策から見学の受入れも休止中で以前より講演機会が減ったが、リモートで年9回[受講者474名]の講演を行った。

主な利用者講演実績(講演先一覧)

月 日	依頼元	対象者	参加者
2021.6.24	神奈川県立大井高校	社会福祉援助技術選択者2年生	7
2021.7.20	小田原短期大学	保育学科2年生	109
2021.7.21	国際医療福祉大学 成田校	言語聴覚学科3年生	30
2021.10.9	茅ヶ崎市小出地区社協	民生児童員研修会	30
2021.10.25	小田原短期大学	保育学科1年生	110
2021.10.28	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	30
2021.11.1	中央医療健康大学校	歯科衛生士学科1年生	35
2021.12.24	中央医療健康大学校	理学療法学科 1.2年生	83
2022.3.22	国際医療福祉大学 成田・大和田	受講希望者	40



リモートでの利用者講演

16. 広報の状況

(1) 広報誌『やまぶき』の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。例年通り3回の発行を行った。主に利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政、関連機関等へ約500部印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
75号	4月30日	令和4年度事業計画 各事業所ニュース 他
76号	7月31日	令和3年度事業報告 各事業所ニュース 他
77号	1月1日	新年のあいさつ 各事業所ニュース 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ&SNS

県西福祉会のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを活動やイベントを中心に随時更新した。ふくらんについては専用のホームページやフェイスブック(“いいね!”は1,406)、インスタグラム(フォロワー1,338人)を活用し、認知力向上につとめた。

17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受入れ

足柄療護園では言語聴覚士の実習や神奈川県社会福祉協議会からの依頼を受け教員免許取得介護体験実習4名を受入れた。プレアデスでは、小田原短大4名、鎌倉女子短大1名の保育実習を受入れた。また、外部法人より職員研修5名の受入れを行った。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	6/7～7/17(6週間)
足	教員免許取得介護体験	神奈川県社協	4	10/4～11/19 (1人5日間)
足	職員研修	神奈川県 (愛名やまゆり園)	1	11/8～12(5日間)
プ	保育実習	鎌倉女子短期大学	1	8/4～8/17(11日間)
プ	保育実習	小田原短期大学	4	8/16～9/10(10日間)
プ	職員研修	美音の郷	4	10/11～10/22(5日間)

実習受入実績

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は43家族。5月の総会は書面決議で実施し、恒例の親睦パーティーは中止した。(令和3年度会長:稲本浩美氏)

プレアデスでは、恒例のご家族合同バーベキューは中止した。プレアデスホームでは、年末大掃除にご家族・後見人等の関係者に協力頂き、各個人の居室を本人と一緒に清掃していただいた。

(4) 施設見学

感染対策から施設見学・視察の受入れは中止した。

18. 施設整備等

送迎車両整備〔プレアデス〕

神奈川県の福祉車両贈呈候補者募集に応募したところ、公益財団法人みずほ福祉助成財団より、「プレアデス」に対し送迎車両「日産キャラバン」を贈呈いただいた。



送迎車両の寄贈

訓練機器等整備〔県西福祉センター〕

アマゾンジャパンより、クリスマスチャリティのグローバルキャンペーンの一環として、10万円分のアマゾンギフト券を寄付いただき、県西福祉センターの新事業「共生型通所介護」開設に向けた訓練機器等の整備を行った。



訓練機器等の整備

令和3年度 部門別重点実施事項 実施報告

足柄療護園	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	日中活動をフロア別や小グループで実施し、より個に対するフォローを重点に対応する。また、担当者利用者に対するバックアップ体制を充実させる。	4 新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止のため、徹底した感染対策をするとともに、フロア別や小グループで日中活動を行い定着することができた。
魅力的な就労支援サービスの確立		
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援計画書に基づいた一人一人の役割にも重点をあて、利用者個々の支援強化を行う。	2 個に対する支援の強化は継続して行う事はできた。しかし、役割としての計画を重点的にはできなかった。
災害時の安心の確保	各種災害に対応した、マニュアルの更新及び施設が災害（感染発生含む）後も継続的に施設運営を行っていくためにBCPの再検討を行う。	3 災害のマニュアル（リスクマネジメントマニュアル）については更新を行うことができた。BCPの再検討までは至っていない。
組織体制の強化	オンラインで会議や研修が可能となるよう見直し、職員の負担軽減につなげる。さくさく委員会を中心に外国人労働者の受入準備を行う。	4 オンラインで会議や研修を行い、法人全体でも活用をすることができた。外国人技能実習生の受入について、マニュアル作成や受入方法の検討を行った。
権利擁護意識の向上	権利擁護委員会による、職員に対する利用者一人一人への権利意識の向上をはかる。成年後見制度のさらなる利用促進を行う。	4 権利擁護委員会において権利擁護ガイドラインを作成し、職員が意識向上するよう取り組んだ。新たに後見制度利用を促し、申請等のフォローを行うなどした。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	医療ケア研修の実施など、職員のスキル向上を目指す。リーダーを中心に担当業務のフォローを行い全体の能力向上を目指す。	3 新たに医療ケアが必要な方に対応するための対応方法を検討するよう努めた。専門知識のあるリーダーを中心とした指導により全体的な能力向上を目指した。
地域サービスの充実	短期入所の新規利用者の確保と利用登録者の利用促進をはかる。医療ケア等の対応のため、喀痰吸引「特定」対応職員の育成を行う。	3 短期入所の新規受付や、そのための対応方法の検討を行った。しかし、体調の変化等で利用継続を断念するケースもあった。医療ケア対応は調整し、実施に向けて動いたが、職員育成まで行うことはできなかった。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	あんしんネットについて行政と連携をはかり今後のあり方を検討する。65歳以上の継続利用について共生型サービスを検討する。	2 あんしんネットの方向性が定まらず、未検討。65歳以上対象の共生型サービスは、現段階で、対象者やニーズが上がっておらず、実施までは至らなかった。
障害者福祉の啓発	施設視察の受け入れは感染状況を確認しながら行う。大学・専門学校・高校生とのつながり方について検討する。	2 ICTを駆使して視察や見学、利用者の講演活動を行った。また、教員免許の取得のための研修など感染状況をみながら対応をすることができた。
教育機関及び地域との連携強化	感染対策を行いつつボランティアの受け入れを判断する。地域や教育機関との連携強化をはかる。	2 ボランティア活動については、リモートなどの方法により、直接会わずに実施するなど、新たな対応に取り組むことは少しずつできたが、地域などとの連携強化とまでは至らなかった。

県西福祉センター	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	月間プログラムの強化し、利用促進につなげる。感染対策を行いつつ実施可能な新たな日中活動を検討し実施する。土曜営業を強化する。	3 生活介護にて感染対策を行いながら、季節に沿った創作活動を多く取り入れた。土曜営業は、職員不足の為、一時中止となった。
魅力的な就労支援サービスの確立	作業内容を見直し、効率的で安定した作業の提供をはかる。工賃基準を見直し平均工賃の引き上げをはかる。	3 コロナの影響で受注作業は減少のままだが年間を通し、作業を提供できた。作業内容を見直し効率化を目指したが効率化・平均工賃引き上げに至らなかった。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援に沿って個々の活動を明確化し強化する。オンラインを活用するなど、利用者講演活動に意欲的に取り組めるように支援する。	4 個々のニーズ、障害特性に添った支援を提供してきた。定期的にモニタリングを実施し個別支援計画に反映させた。オンラインでの利用者講演活動を支援してきた。
災害時の安心の確保	災害対策マニュアルを検証するとともに、感染症発生時も含めた事業継続計画(BCP)の策定と訓練実施方法の検討を行う。	4 災害対策マニュアルを検証し事業継続計画(BCP)の策定と訓練実施方法を検討してきた。
組織体制の強化	各事業の業務見直し改善をはかり、体制を強化する。各事業の特性を活かしたサービスを提供する。	3 生活介護では、入浴、訓練、創作活動の在り方を検討し改善をはかった。就労継続支援B型では、職員業務を見直し効率化をはかった。
権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。権利擁護研修への参加し利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	3 利用者接遇意識については会議等で人権意識の向上をはかった。成年後見制度を利用するものはいなかった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加できるように体制を整え、専門知識・マネジメント力を強化する。各職員の役割を強化し支援員の能力向上を行う。	3 積極的に研修に参加できるように調整し、研修に参加。また、ビデオでの参加に努めた。外部研修では相談支援現任研修、サービス管理責任者更新研修に参加。
地域サービスの充実	各事業のサービス提供の特徴を明確にして広報活動にも力を入れる。新規利用者受入れを強化し年間利用者延べ人数9,180名を目指す。	3 新規利用者受入れを積極的に関係機関に情報発信し、年間13名の新規利用者を受入れたが、土曜営業の中止や新型コロナウイルスの影響により、全体で延べ利用者数6,999名となり目標数値には届かなかった。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	地域の適正・ニーズにそったサービスを提供する。65歳以上でも利用継続できる「共生型サービス」実施に向けた検討を行う。	4 共生型通所介護事業を令和4年度4月に開設できるよう準備をすすめた。
障害者福祉の啓発	SNSなどを活用して情報発信する仕組みをつくる。養護学校・特別支援級の体験受入れを行う。	3 SNSを活用し情報発信を行った。新型コロナウイルス感染症対策の為、養護学校の受け入れは中止となった。
教育機関及び地域との連携強化	地域の関係機関と定期的に情報交換を行い、ニーズに合わせた連携強化をはかる。	4 できるだけオンラインでの外部会議の参加や情報交換を行い関係機関と連携をとった。

令和3年度 部門別重点実施事項 実施報告

プレアデス	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	感染対策で休止しているイベント・活動・個別支援について、内容を再検討し、withコロナでも実施できるようにする。	4	マスクをつける習慣のない利用者に対し、無理のない個別支援計画に則りマスクをつける練習を実施。結果、外出等の行事やミニ夏祭りも実施できた。
魅力的な就労支援サービスの確立	ふくらんを主軸に置きつつ作業内容及び工賃の見直しを行い、工賃向上をはかる。受注作業先の選別を行い業務の効率化をはかる。	4	利用者の軽作業を段階的にふくらんへ移行実施。それに伴い施設外就労の縮小、受注作業に関してはステック糊を作業の中心とし、受注先を必要最低限に絞った。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	利用者個々のストレンクスを活かし日々の作業や活動の中で本人が主体となる事を取り入れ、達成感の向上につなげる。	4	食事の配膳、トイレ清掃、物品管理、洗濯など利用者の個別支援と繋げて役割を用意し、日常生活の中にも本人のやりがいや充実感を感じられる場面を増やした。
災害時の安心の確保	障害が重い方でも安心できる避難方法の検討を行い、訓練を実施する。より実践に近い形での避難体制を構築する。	4	避難訓練時、場面転換が苦手な利用者に対し特別なヘルメットを制作し、参加率が向上した。また、車いすの利用者への避難時の職員の役割検討も行った。
組織体制の強化	業務マニュアルを整備し誰でも同じように対応できるようにする。物品管理窓口を統一しコスト削減と業務負担軽減を目指す。	4	利用者の少ない週末の職員配置や宿直前後の勤務体制の見直し検証を実施した。就労では物品管理の一元化を行う事でコストと業務負担の軽減を行った。
権利擁護意識の向上	権利侵害が発生していないか2カ月に1度確認する場を設け、研修等を通して権利擁護への意識向上をはかる。	3	職員間の業務会話で、排泄等に関する言動に着目し、利用者の権利侵害が発生している可能性や、権利侵害にならない為の言い回しの検討・検証・実施を行った。
専門的知識の習得とマシ・M力への向上	精神障害や強度行動障害にかかわる知識向上を目的に、専門知識習得の研修を行う。	3	年末に生活介護、就労B、グループホーム3事業所合同による、事例を用いた研修会を実施した。
地域サービスの充実	年間利用者延べ人数13,800名を目指す。家族や関係機関との連携をはかり、コロナ禍で増えている家庭内支援に係る不安解消をはかる。	2	家族の不安解消のため、例年以上に各家族と電話や連絡帳を通じて密な連絡を行い、些細な事でも不安な家族には個別相談を随時行った。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	多機能型から単独型への移行準備の中で課題の整理と解決方法を検討する。送迎についても新たな方法を模索して行く。	4	単独型への移行に向けて、各事業所内で職員のローテーション、送迎・給食の配膳・下膳の方法について検討をすすめた。他にも職員の見守り体制やトイレ清掃・給食当番など業務の改善をすすめた。
障害者福祉の啓発	地域教育機関からの学習実習・見学の依頼には感染対策を徹底し実施し地域での障害福祉啓発につとめる。	3	2年ぶりに南足柄小学校2年生の地域学習「町たんけん」のふくらんの見学の受入れを行い、地域障害併発に貢献した。
教育機関及び地域との連携強化	自主製品については地産地消を意識し地元の生産者や販売先との連携を深めていく。	4	山北町産の牛乳を使った薫る野プリンを製品化し販売した。薫る野プリンは南足柄市のふるさと納税の返礼品にも採用された。

プレアデスホーム	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	感染対策で休止しているイベント・活動・個別支援について、内容を再検討し、withコロナでも実施する。	4	アクリル板越しに、2~3人で行う余暇支援や、居室で個々に楽しむ過ごし方を検討した。また、職員とのコミュニケーション増を図り、ストレス軽減へと繋がった。
魅力的な就労支援サービスの確立	ふくらんを主軸に置きつつ作業内容及び工賃の見直しを行い、工賃向上をはかる。受注作業先の選別を行い業務の効率化をはかる。	4	日々の体調観察を行い、企業や他事業所と連携を図り、外出に係る支持を仰いだ。時差出勤や出勤日数も戻る中で、生活リズムを取り戻せるよう見直し、起床時間や食事時間を変更した。また体力づくりも行った。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	利用者個々のストレンクスを活かし日々の作業や活動の中で本人が主体となる事を取り入れ、達成感の向上につなげる。	4	コロナ禍において、GH内や居室にいる時間が増えた事により、過ごし方を整理、検討した。個々の洗濯、衣類干し、掃除など生活訓練に取り組むケースもあった。
災害時の安心の確保	障害が重い方でも安心できる避難方法の検討を行い、訓練を実施する。より実践に近い形での避難体制を構築する。	4	コロナ感染者が、各棟の誰が感染したかを想定し、ゾーニング、職員の動き方、防護服等の物資準備を行った。また、保健所や県クラスター班と情報共有できた。
組織体制の強化	業務マニュアルを整備し誰でも同じように対応できるようにする。物品管理窓口を統一しコスト削減と業務負担軽減を目指す。	4	限定したGH職員の対応により、利用者支援が迅速に対応可能となり、安心・安全な生活へと繋がった。また、ケース担当増により、支援方法の見直しも行った。
権利擁護意識の向上	権利侵害が発生していないか2カ月に1度確認する場を設け、研修等を通して権利擁護への意識向上をはかる。	4	毎月、本人と面談を行い、意向を確認しながら、安心センター、後見人、ご家族と日々の金銭管理方法や、お小遣い額の変更など現状について再確認を行った。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	精神障害や強度行動障害にかかわる知識向上を目的に、専門知識習得の研修を行う。	3	感染対策から、会議・研修等の新たな企画は難しかった。世話人会議では、精神、知的、身体障害特性について話し合った。虐待・拘束の研修を実施した。
地域サービスの充実	年間利用者延べ人数13800名を目指す。家族や関係機関との連携をはかり、コロナ禍で増えている家庭内支援に係る不安解消をはかる。	4	ICT活用しカンファレンスを定期的に行った。特に医療ケースの相談が多く、医療機関と連携を図り、GH近郊の医療機関へ移行など支援体制の連携を強化した。
事業体系の見直しと高齢障害者サービス検討	多機能型から単独型への移行準備の中で課題の整理と解決方法を検討する。送迎についても新たな方法を模索して行く。	3	プレアデス新事業体系に向け、日中支援事業所との送迎体制の見直しを繰り返し行った。また週末のGH兼務職員のGH配置時間変更した。
障害者福祉の啓発	地域教育機関からの学習実習・見学の依頼には感染対策を徹底し実施し、地域での障害福祉啓発につとめる。	3	相談、教育、行政、医療機関などから、利用相談や運営内容の質問や相談があり、共同生活援助サービスの啓発に努めた。積極的なGH体験利用は実施できなかった。
教育機関及び地域との連携強化	自主製品については地産地消を意識し地元の生産者や販売先との連携を深めていく。	4	外出自粛、行動範囲、外出回数減少もあり、近隣で叶えられるように感染対策を意識した生活様式の見直しもはかった。

令和3年度 事業報告

